

第三日目以後の漢字遊び

もう説明するまでもないと思います。第三日目は「これ何ていう字？」と尋ねるカードが二枚になります。「これなあに？ そう“いちご”ね。よく読めました。では、これは何でしょう。そう“もも”ね。よく読めました。二つとも覚えましたね、えらい。では今日は、この字を教えてあげましょう」と言って三枚目のカードに移るのです。

苺が読めて桃が読めない場合は、第二日目のつもりで、先日のことを繰り返してやります。そのやり方については、前述の通りですから、その注意通り実行して下さい。

さて、このやり方で、第四日、第五日と進めて行けばよろしいのです。第四日には、順調に行けば、「これなあに」と言って尋ねるカードが三枚になり、第五日にはそれが四枚に、第六日には五枚になります。

こうして、日が進むにつれて、質問するカードが一枚ずつ増えていきますから、“漢字遊び”の時間もわずかではありますが、日ごとに増えていきます。だから、第八日には、順調に進みますと、質問するカードが七枚になります。

そして、第八日の第五セットが終了した時点で、最初の“苺”という漢字は、百五回も反復して読んだことになります(15回×7)。“反復”は多ければ多いほど良いのですが、一応、百五回の反復で半永久的な記憶になりますので、“卒業”ということにして、第九日以降の質問からは削ります。

従って、質問するカードは、第二日から一枚ずつ増えていって第八日で七枚になりますが、一日ごとに増えるのはそれまでで、それ以後は、一枚増えても一枚減りますので、第九日以降はずっと七枚ということになり、一定します。

だから、七枚のカードの質問に要する時間がおよそ二十秒として、これにその日初めて学習する新しい漢字の“漢字遊び”の十秒を加えた三十秒が、一度の“漢字遊び”に費される時間の総量です。

この三十秒の遊びが一セットに三度ありますから、この時間が一分半。それを一日五セットやりますから、一日に費される“漢字遊び”の時間の総量は、約七分半ということになります。